

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	海老名市立わかば学園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	219	(回答者数) 90
○従業者評価実施期間	2026年 1月 8日		2026年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保護者とやりとりをする機会を多く設けている	・親子登園をお願いしており、保護者担当職員を配置することや送り迎えの機会を活用し連携を図るようにしている。 ・保護者担当者を固定することで話がしやすいようにしている。一方でグループには複数の職員を配置し、話しやすい職員を選択できるようにも配慮している。	・利用回数を増やすことは現状では難しいが、活動日以外に保護者面談ができるように職員体制を整え、周知を図る。 ・市内親の会の協力を仰ぎ、親の会活動の紹介や座談会などを企画し、保護者支援の充実を図る。
2	・児童発達支援センターと一体化していることもあり、活動スペースが十分に確保されている	・児童発達支援センターと共有のスペースに体育室があるため、身体を動かす活動や雨天時プログラムの際に活用している。また、夏には屋上プールも設置されており活動内容を広げやすい。会館ロビーには自動販売機も設置されており、買い物体験を都度取り入れるようにしている。	・スペースは確保されているが、お子さんの状況に合わせてもう少し構造化できると良い。活動に参加しにくい、もしくは集団に入りにくいお子さんに対応するスペースを確保できるとなお良い。
3	・幼児期から利用者のことを知っている職員が担当している	・お子さんが安心して放課後等デイサービスの活動に参加できるように、特に移行期は、児童発達支援センターで担当していた職員がグループのフォローに入ったり、対応の引継ぎを行うようにしている。	・放課後等デイサービスの担当者が児童発達支援センターの療育に入るなど、受け入れ前にお子さんの様子を把握する機会を積極的に作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用回数が少ない	・児童発達支援からのフォローアップの意味合いもあり、移行時に利用希望された方全員を受け入れるようにしている。そのため、一人当たりが利用できる回数が限られている。	
2	・グループ療育のみの提供であり、個別療育を選択することができない	・集団活動に参加しにくいお子さんに対して、場所を分けるなどの対応はしているが、ご家族や本人のニーズに合う個別の療育は提供できていない。	・受給者証発行に際しての条件や利用上限日数に変更になるなど、海老名市全体で放課後等デイサービスの利用が見直されていることを踏まえて、わかば学園が行う放課後等デイサービスの強みやご利用者のニーズを改めて確認していく。その上で海老名市から期待されるわかば学園の役割りを明確にし、サービス内容等を市と協議する必要がある。
3	・小学生までのサービスとなっている	・児童発達支援からのフォローアップとして利用される方が多く、年々利用者数が増加しており、現在の枠組みでは中学生以降の受け入れが難しい。	